

# 平成 25 年度事業報告

特別養護老人ホーム藤美苑(ショートステイ含む)

藤美苑デイサービスセンター

藤美苑居宅介護支援事業所

社会福祉法人葆光会

## I 平成25年度事業報告

平成25年度については、ご利用者においてノロウイルスやインフルエンザの発症もなく感染症対策については初期対応がうまくできたものと思われる。それ以外については、入所者における介護量の増加や可能な限り個々のニーズに対応してきたものの、同時に職員の身体的精神的負担による体調不良が以前より多く見られ、十分なフォローができなかった部分もあった。

事業としては、特養及び短期入所においていずれも1日平均利用者が前年を上回る利用増を図ることができたが、通所介護においては、4月・5月の利用減がひびき、結果として前年度をわずかながら下回る結果となった。

### 《経営感覚について》

短期入所利用者は新規ご利用者や継続利用者増及び他セクションとの協力により月平均17.7名と前年を上回ったが、通所介護利用者は4月・5月の利用が体調不良や利用者の入所及び入院等により平均8名台だったため、年間月平均9.9名と前年を下回る結果となった。

一般入所者については、前年度同様に新規入所期間の短縮や計画的な待機者への実情調査及び診断書の事前提出等の取組みが継続しており、安定した入所となった。又、入院者についても8月・11月を除けばとくにたくさんの入院者とはならず、平均でも3.4名と前年度より1名以上の減となった。

### 《スタッフの確保について》

今年度は比較的安定しており、2名の退職と6名の採用をした。特に24年度採用が不安定であった介護職については順調に採用できた。しかしながら今後としては、当施設の特徴でもある看護職員への安定した採用については大きな課題と心得ている。又、こういった介護の仕事は「人が宝」であるため、今後も可能な限り介護・看護職員への採用に投資しあわせて、採用後の定着に向けて引き続き研修のあり方等工夫し、働きやすい職場環境を作っていく必要がある。

### 《感染予防と拡大防止について》

インフルエンザやノロウイルスについては、予防や初期対応・プラズマクラスター・加湿器・次亜塩素酸水の利用をはじめ、一丸となり予防に努め今年度は入所者においての発生は見られなかった。

又、12月から3月にかけて今年度は全ての居室に加湿器を設置し湿度も45～50%を得ることができた。

今後も、年間を通して嘔吐物や下痢便等の確実適切な処理方法の研修やマニュアルの見直し・感染防止・除菌消臭に努めて行く。

#### 《食の見直しについて》

入所者にとっての楽しみである食事については、嚥下状況等も考慮しソフト食や手作りおやつの今まで以上の充実に向けて、目処をつけることができた。

又、今年度より始めた「ご家族昼食体験企画」については26名の参加があり、食を通して色々なご意見を伺うことができ今後の食事や施設運営におおいに参考となる機会となったため、今後も継続していきたい。

#### 《AED・防災対策について》

AED トレーナーセットを使い繰り返し職員への研修を実施し又、年2回の避難訓練(日中及び夜間想定各1回・実際にR119の模擬実施)、年1回の震災訓練を通して全職員が防災に対する認識を高め、引き続き安心安全な日常生活を送っていただけるように継続し実施していく必要がある。

又、地域における防災の役割と非常食の備蓄量についても継続して見直しをしていく必要がある。

#### 《修繕補修について》

計画的な修繕補修として、居室以外の冷暖房空調設備交換を無事実施することができた。又、今後は築年数もたつて来るため居室の改修も大きな課題となってくる。

(資料 1) 平成25年度 藤美苑の介護実績

上段……平成25年度  
下段……平成24年度

区分	延入所者数	増減数 (人)	1日平均 利用者 (人)	年度末利 用者(人)	平均介護 度(度)	1日平均 入院者 (人)	入所者数 (人)	退所者数 (人)	死亡者数 (人)	年度未入 所待機者 (人)
特養	27,867	460	79.7	80	3.65	3.4	17	16	12	176
	27,407		79.5	79	3.6	4.5	25	23	6	388

短期入所	6452(0)	101	17.7		3.3					
	6351(36)		17.4		3.5					

通所介護	2512(予防373)	▲39	9.9		2.46					
	2551(予防175)		10.1		2.7					

区分	ケアプラン	増減数 (人)	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
居宅支援	326(予防111)	▲13	15	96	67	39	47	44	18
	339(予防111)		25	86	33	48	72	60	15

平成25年度入退所・入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者数(人)	1	4	0	0	0	1	3	2	1	0	5	0	17
退所者数(人)	1	3	0	0	0	2	2	3	0	1	4	0	16
月末在籍者数(人)	79	80	80	80	80	79	80	79	80	79	80	80	80
月末入院者数(人)	2	3	3	1	7	5	3	9	3	5	6	4	
月末実質生活者数 (人)	77	77	77	79	73	74	77	70	77	74	74	76	

表 会議・委員会開催状況（平成25年度）

名称	参加者	開催予定	会議等の主な内容	実施回数
運営会議	苑長、介護部次長 支援相談課長、支援相談係長 居宅支援課長、看護リガー、 介護課長、通所介護課長、 総務課長、栄養指導係長	月1回 第3月曜日	運営方針・処遇方針の討議 行事予定の決定	12回
職員会議	全職員	月1回 第4木曜日	運営方針、処遇方針の報告 各種研修、会議の報告 行事の計画発表	12回
給食会議	介護部次長 栄養指導係長 支援相談課長 介護課長、看護リガー	月1回	給食における新メニュー案や その他問題の対応 喫茶での問題の対応	12回
介護課会議	介護課長、介護指導係長 介護1・2・3係長(ケアリガー)	月2回 第2・4火曜日	各フロアにおける翌月の行事、処遇、そ の他の取組予定の討議	11回
ケアカンファ レンス	介護支援専門員、支援相談課長 介護課長、介護指導係長 看護課長、栄養指導係、介護係 長	月3回 その他必要 時に実施	各フロアごとに入所者個々のケアプラ ンについて討議	40回
行事企画 委員会	行事企画委員メンバー	月1回 第1火曜日	当苑における春まつり、夏祭り、秋まつ り、敬老会、流しそうめんの等の行事の 立案・企画・準備	11回
藤美苑便り 編集委員会	藤美苑便り編集委員	月2回 第2水曜日	広報誌“藤美苑便り”の紙面内容の検 討・構成・発送	11回
ゼネラル 給食会議	苑長 栄養指導係長	月1回 第2金曜日	給食会議で出された問題等についての改 善、その他新しい取組について	12回
処遇検討会議	苑長、介護部次長 支援相談課長、支援相談係長 介護課長、看護リガー、 栄養指導係長	月1回 第4水曜日	入所希望者、退所対象者に関する事項の 報告、検討及び入所者個々の処遇の決 定。施設のリスクを把握し対応検討。	12回
身体拘束廃止 委員会	苑長、介護部次長 支援相談課長、支援相談係長 介護課長、看護リガー、 栄養指導係長、介護指導係長	月1回 第4水曜日	身体拘束廃止の為の様々な問題の検討。 個別対応検討含む。	12回
入所検討 委員会	第3者委員（水野弁護士） 苑長、介護部次長 支援相談課長、支援相談係長 介護課長、看護リガー、 栄養指導係長	3ヶ月に1回 第3木曜日	入所待機者の中での順位を決定する。	4回
医療的ケア 対策検討委員 会	苑長、介護部次長 支援相談課長、支援相談係長 介護課長、看護リガー、 栄養指導係長	3ヶ月に1回 第4水曜日	看護職員と介護職員の連携による医行為 実施に向けての体制・手続き・事例分析 検討・教育指導法検討・手順の検討と見 直し	6回
褥瘡対策委員 会	嘱託医 苑長 介護部次長 介護課長 看護リガー 介護支援専門員 栄養指導係 長	月1回 第4水曜日	ハイリスク者に対し予防計画及び褥瘡対象者 に対し診療計画の作成	12回
外出担当者会 議	外出担当介護職員	月1回	季節に合わせてご利用者に外出して頂く 為の調査報告、企画を検討。	7回
排泄向上担当 者会議	排泄向上担当者	月1回	使用物品の見直しやマニュアル作成など排泄ケ アの向上を図る	1回
名古屋市老人福祉施設 作品展担当者会議	作品展担当者職員	月1回 不定期	名古屋市老人福祉施設作品展参加に向け ての立案・企画・準備	5回
ケアスタッフ 総合勉強会	全介護職員	年1回	特養介護職員の連携を図る為の協議	1回
看護課 ミーティング	看護職員	月1回	看護における諸問題の検討や各種決め事 等の変更についての話し合い	1回
デイサービス 会議	デイサービス職員	月1回	デイサービスにおける諸問題の検討や各 種決め事等の変更についての話し合い	11回

表 平成25年度の行事

年月日	内 容	参 加 者				計
		家族	地域住民	ボランティア	入所者(ショートステイ含む)	
4月5日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
4月10日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
4月13日	春まつり				97	97
4月19日	4月 誕生会				97	97
4月25日	選択食				95	95
4月27日	衣類販売(春夏)			2	96	96
5月10日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
5月8日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
5月13日	5月 誕生会				93	93
5月25日	選択食				99	99
5月29日	第1回昼食体験企画	10				10
6月7日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
6月2日	おたのしみ外出(徳川天王祭り)				2	2
6月12日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
6月21日	6月 誕生会			24	97	121
6月26日	選択食				99	99
7月6日	流しそうめん				98	98
7月8日	7月 誕生会				98	98
7月10日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
7月16日	おたのしみ外出(ビール工場見学)				2	2
7月19日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
7月27日	選択食				98	98
7月29日	第2回 昼食体験企画	5				5
8月3日	夏祭り	78		28	99	205
8月8日	おたのしみ外出(寿司ツアー)				3	3
8月12日	8月 誕生会				100	100
8月16日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
8月20日	選択食				99	99
9月9日	9月 誕生会				99	99
9月11日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
9月13日	敬老祝賀会			13	98	111
9月20日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
9月27日	おたのしみ外出(自宅)	1			1	2
9月28日	第3回食事体験企画	5				5
9月28日	選択食				98	98
9月30日	避難訓練(昼間)				95	95
10月18日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
10月9日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
10月11日	10月 誕生会				100	100
10月12日	おたのしみ外出	1			1	2
10月19日	衣類販売(秋冬)			2	26	28
10月28日	選択食				98	98

表. 平成25年度の行事

年月日	内 容	参 加 者				計
		家族	地域住民	ボランティア	入所者(ショート ステイ含む)	
11月9日	秋まつり	15		7	99	121
11月11日	11月 誕生会			3	100	103
11月13日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
11月23日	選択食				97	97
12月6日	第4回昼食体験企画	6				6
12月6日	鍋の日				98	98
12月9日	12月 誕生会			3	98	101
12月11日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
12月14日	お楽しみ外出(自宅)	2			1	3
12月16日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
12月20日	選択食				100	100
1月8日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
1月10日	1月 誕生会				97	97
1月17日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
1月18日	鍋の日				98	98
1月25日	選択食				101	101
1月31日	お楽しみ外出(初詣)				99	99
2月8日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
2月3日	節分				97	97
2月10日	2月 誕生会				97	97
2月15日	鍋の日				95	95
2月21日	ペーパーフラワークラブ			1	10	11
2月22日	選択食				96	96
3月10日	3月 誕生会				99	99
3月12日	あすなろお茶を楽しんで飲む会			5	10	15
3月21日	選択食				96	96
その他	※夏期高校生ボランティア受入(上記、夏祭等への参加も含む) ※あすなろお茶を楽しんで飲む会の入所者参加数は平均値					



職員の研修状況  
研修の状況

施設外研修 (平成25年度)

職員の研修状況

研修・会議名	月・日	研修・会議内容	参加職種	参加者氏名
老人福祉施設における職場環境向上説明会	2月3日	これは知っておきたい 労務管理&助成金活用術	総務課長	向井和秀
新人社員研修会	4月2日	仕事の進め方基本研修会	ケアスタッフ	西田さこ
名古屋市介護サービス事業者連絡研究会 第1回例会	4月17日	「名古屋市の被災地支援の取り組み」	居宅支援課長	堤 清志
名古屋市老人ホーム生活相談員会議	5月17日	名古屋市老人ホーム輪投げ大会について	支援相談課長	矢田 博
KJ法でひも解く介護施設における衛生・感染の課題について考える ワークショップ	5月22日	KJ法でひも解く介護施設における衛生・感染の課題	介護次長	安田 知子
名古屋市老協総会	6月5日	行政連絡	苑長	小塚敬貴
平成25年度社会福祉法人集団指導の開催について	6月6日	平成25年度社会福祉法人及び社会福祉施設に対する指導監査の概要について	総務課長	向井和秀
名古屋市老人ホーム輪投げ大会	6月6日	輪投げ大会の集計担当	支援相談課長	矢田 博
会計基礎研修	6月20日	社会福祉施設の会計基礎～経理の基礎と、新会計基準へスムーズに移行するための基本を学ぶ～	総務課長	向井和秀
名介研平成25年度第2回例会開催	6月20日	名古屋市内における定期巡回・随時対応サービスの実状	居宅支援課長	堤 清志
看護師のための口腔ケア&嚥下リハビリ	6月23日	口腔ケア&嚥下リハビリ	看護職員	清水真さみ
デイサービスの質向上と稼働率を向上させる方法学習会	6月30日	デイサービスの質向上と稼働率を向上させる方法	通所介護課長	富永年男
労務リスク対策セミナー『介護施設の労務管理』	7月2日	今すぐ着手すべき『労務管理の適正化』	苑長	小塚敬貴
社会保険委員会事務研究会	7月5日	「協会けんぽからのお知らせ」「防災・減殺お役たちガイド」	総務課長	向井和秀
第25回防火管理者協議会講演会	7月16日	「予防行政の動向～事業所における防火・防火対策～」	苑長	小塚敬貴
認知症基礎研修Ⅳ	7月23日	認知症の基礎知識	支援相談係長	竹内 夕喜
老人施設研修大会 福井	7月25日	「科学的介護」～根拠に基づいた自立支援の実践	ケアスタッフ	松原さおり
老人施設研修大会 福井	7月25日	「科学的介護」～根拠に基づいた自立支援の実践	ケアスタッフ	上田美佳
老人施設研修大会 福井	7月26日	「科学的介護」～根拠に基づいた自立支援の実践	ケアスタッフ	松原さおり

研修・会議名	月・日	研修・会議内容	参加職種	参加者氏名
老人施設研修大会 福井	7月26日	「科学的介護」～根拠に基づいた自立支援の実践	ケアスタッフ	上田美佳
介護保険指定講習会	8月1日	介護保険指定事業者に対する指導	支援相談課長	矢田 博
認知症専門医から学ぶ“周辺症状”に振り回されないケア	8月4日	徘徊 昼夜逆転 など具体的な関わり方の習得	介護係長	吉田正和
認知症専門医から学ぶ 周辺症状に振り回されないケア	8月4日	徘徊 昼夜逆転 など具体的な関わり方の習得	介護係長	吉田 正和
ストレスマネジメント技法～部下や後輩のイロ・サインを見逃さないため	8月6日	メンタルヘルスと ストレスマネジメント	介護指導係長	松田俊哉
社会福祉法人新会計基準実務研修会	8月28日	愛知県民間社会福祉事業職員共済会退職掛金の仕方方法と具体的勘定科目	総務課長	向井和秀
名古屋市認定調査員研修	9月6日	【講演】精神疾患を理解し、認定調査の聞き取りに活かしていく	居宅支援課長	関口彰一
名古屋市認定調査員研修	9月6日	【講演】精神疾患を理解し、認定調査の聞き取りに活かしていく	居宅相談課長	堤清志
名古屋市認定調査員研修	9月6日	【講演】精神疾患を理解し、認定調査の聞き取りに活かしていく	支援相談係長	竹内夕黄
新入社員フォローアップ研修	9月9日	職場の人間関係 他	ケアスタッフ	西田さこ
第1回 福祉関係経営者セミナー	9月10日	「魅力ある職場づくりへ」	苑長	小塚敬貴
相談援助技術研修Ⅱ	9月24日	相談支援場面で必要な対人関係能力を身につける～利用者や援助者との円滑な意思疎通を目指して	生活相談員	熊崎洋一

研修・会議名	月・日	研修・会議内容	参加職種	参加者氏名
職場の魅力作り・指導教育・スタッフ定着	10月5日	魅力的な職場作り	介護指導係長	松田俊哉
新会計基準対策研修	10月22日	社会福祉法人新会計基準について	総務課長	向井和秀
食と健康講演会	10月24日	栄養関係者に役立つ時間栄養学	管理栄養士	野崎道香
施設相談員の役割の明確化と連携調整の進め方	10月27日	施設相談員の現状の課題	生活相談員	熊崎洋一
東海北陸ブロック カンントリーミーティング石川大会 1日目	11月14日	全体会 分科会「地域包括ケアにおける施設ケアの役割を考える」	支援相談課長	関口彰一
東海北陸ブロック カンントリーミーティング石川大会 1日目	11月14日	全体会 分科会 「ケアの標準化を考える」	介護指導課長	松田俊哉
東海北陸ブロック カンントリーミーティング石川大会 1日目	11月14日	全体会 分科会 「ケアの標準化を考える」	ケアスタッフ	手塚正哉
東海北陸ブロック カンントリーミーティング石川大会 2日目	11月15日	分科会「地域包括ケアにおける施設ケアの役割を考える」基調報告	支援相談課長	関口彰一
東海北陸ブロック カンントリーミーティング石川大会 2日目	11月15日	分科会 「ケアの標準化を考える」基調報告	介護指導課長	松田俊哉
東海北陸ブロック カンントリーミーティング石川大会 2日目	11月15日	分科会 「ケアの標準化を考える」基調報告	ケアスタッフ	手塚正哉
中堅職員研修	11月29日	よりよいケアを実現するための記録術 ～的確な記録のつけ方を学び、ケアに活かす～	ケアスタッフ	宮田晴実
平成25年12月期名古屋市社会福祉施設職員研修	12月18日	相談援助技術研修Ⅱ	生活相談員	熊崎洋一
社会福祉施設の予算・決算について	1月17日	社会福祉施設における予算・決算処理の実務	事務員	大森由賀
社会福祉施設の予算・決算について	1月17日	施設・法人の経営や資産の有効活用を視野に入れた予算書・決算書の読み方	事務員	向井和秀
第3回名古屋市認知症介護実践研修	1月17日	・認知症介護実践研修のねらい 他	ケアリーダー	松尾孝幸
第3回名古屋市認知症介護実践研修	1月20日	・家族の理解・高齢者との関係の理解 他	ケアリーダー	松尾孝幸
第3回名古屋市認知症介護実践研修	1月23日	人的環境と住 居住環境を考える 他	ケアリーダー	松尾孝幸
第3回名古屋市認知症介護実践研修	1月29日	演習1 実習課題設定	ケアリーダー	松尾孝幸
中堅職員研修Ⅱ（施設介護職員向け）	2月10日	・上手な会議習得と魅せ方の習得・課題の整理から改善までの思考・行動テクニック	ケアリーダー	松尾孝幸
愛知県社会福祉協議会高齢者部会（総会）並びに施設長・管理者研修	2月10日	『介護事故とその対応について』～介護事故をめぐる法的紛争の構造を事故事例・裁判事例から考察する	苑長	小塚敬貴
社会福祉事業者による苦情解決制度 受付担当者研修会	2月12日	・福祉サービスに関する法的問題・苦情をサービスの向上につなげるために	生活相談員	熊崎洋一
デイサービス施設長会議	2月24日	名古屋市健康福祉局 行政説明	通所介護課長	富永年男



## Ⅱ 部門別報告

### 1 支援相談部

#### (1) 一般入所者

##### <入所待機者について>

『名古屋市特別養護老人ホーム優先入所に関する指針』により、平成25年度においても継続して3ヶ月ごとの入所検討委員会を4回実施した。

また、名古屋市特別養護老人ホーム入所待機者調査（依頼）については、待機者（平成15年1月1日～26年4月1日）のなかで 個人情報第三者提供について同意を得られている者1089名 同意を得られていない者79名を報告した。

##### <要介護度の状況について>

平均介護度は3.6であり、前年度と比べておおきな変動は見られなかった。

##### <重度化対応>

入所者の重度化にともない、口腔からの食事摂取が困難な方に関しては、これまでどおり胃瘻造設後の施設生活についても取り組んで来た。

25年度は胃瘻増設後の退院については1件の受け入れをしている。

##### <入退所の状況について>

年度内の退所者は16名であった。退所理由は、死亡が11名、長期入院が5名あった。例年よりも少ない退所者数であった。

退所者の平均在所期間は3年6ヶ月で、最高は女性で18年7ヶ月である。

また、年度内における『名古屋市特別養護老人ホーム優先入所に関する指針』5特別な事由による入所（3）における施設長判断による優先的再入所の対象者はなかった。

##### <相談員業務としての稼働率向上の意識付け>

引き続き、計画的に実情調査を進め、また、在宅生活者の中で施設生活への不安がある方においては、入所前にショートステイ利用を検討していくことで、待機者の確保に努め、スムーズな入退所の手続きを遂行することができた。

また、入院者に対しては、医務との連携を密に図り、前もって病院へ実情調査を重ね、状態把握に努め、長期入院者の見極めと退所後の受け入れ先確保の対応に努めることができた。

### <感染症対策>

毎月の運営会議で対策の検討を重ね、感染症マニュアルの作成に至った。

#### ○インフルエンザ

11月、風邪などの施設内の感染予防のため、ご家族様へ面会時のマスク着用、手の消毒の協力を呼びかけた。

これまでのうがい、手荒れによる職員の感染予防の他、施設内の空気清浄機（プラズマクラスター）の設置、次亜塩素酸水の超音波噴霧による空気除菌による環境整備による予防を継続して行った。

また例年同様11月中旬～12月上旬にかけて季節性インフルエンザの予防接種を実施した。

今年度もインフルエンザが疑われる症状の発生はなかった。

#### ○感染性胃腸炎

例年の感染予防に加え、10月、ご家族へ冬季期間に限りご面会時へご家庭で調理された差し入れの禁止を呼びかけた。

今年度は感染性胃腸炎が疑われる症状の発生はなかった。

#### ○高齢者肺炎球菌予防接種

平成22年10月より名古屋市の助成が開始されたのを受け、新入所の方への周知にも努め、協力医療機関での摂取の取り組みを引き続き行った。

### <レクリエーション>

#### 【衣類販売】

入所者対象の衣類訪問販売を、春夏、秋冬の2回、4月、10月に2F食堂で開催した。回を重ねるごとに入所者、ご家族の利用は増加し、また衣替えシーズンとも重なり人気行事となって来ている。

今後も入所者のニーズをふまえ継続して実施していく。

### <家族との交流会>

#### 【食事体験企画】

普段生活しているご利用者様が どういった食事を召し上がっているのか、ご家族様に味付け。見た目等実際に体験して頂き、評価やご意見を頂き、また施設サービスについてもご意見・ご要望をお伺いし、ご家族とのよい関係を継続し、構築していくため 参加費無料で 各回20食限定で 年4回開催した。5月 7月 9月 12月 計26名の参加があった。

## (2) ショートステイ

### <関連業務及び苦情への対応>

ご利用者やそのご家族が藤美苑を継続して利用して頂けるように質の良いサービスの提供を実施する事ができた。

新規利用希望があった場合は、事前の面談を行う事で身体状態や介護者のニーズの把握をしてきた。また、その情報をもとに介護や看護との連携を密にする事ができた。

又、ご利用者に対するサービス向上の為、受け入れ態勢の見直しや、契約内容の確認を随時行った。

受入時には介護課・看護課にてご本人様の心身状態をご利用者とご家族(介護者)に確認・相談し、個々の状況に合ったプランを立てる事ができた。その結果大きな介護事故等は未然に防ぐ事ができた。

ご利用者またはそのご家族からサービスについて苦情があった場合には、迅速かつ適切な対応を心がけた。また苦情の原因になる事実が確認されれば、苦情として発生する前に事前に各課責任者に相談し、トラブルを未然に防ぐよう心がけた。介護スタッフと担当相談員でケアマネジャーやご家族とのコミュニケーションを十分に図る事ができた。その結果大きなクレームは発生しなかった。

ショートステイのご利用者は入退所のサイクルが早い為、ご利用者の状態把握が的確にできるよう継続して努力した。利用中に変化があればその都度ご家族に連絡し、処遇の見直しを提案・相談した。ご利用者の退所時には、ご利用中の様子をカードで手渡しする事等でご家族がご利用中の様子を把握して頂けるように努める事ができた。

担当ケアマネジャーには新規ご利用時の状態報告の他、ADLに変化が見られるご利用者についても報告し、情報交換を充分に行い、ご利用者に対するサービスの向上に役立てる事ができた。

### <稼働率増加対策>

ショートステイの稼働率増加に向け、定期的に空き状況をFAX送信してきた。(FAXの送信時期については月初めと毎月10日から15日前後を目安に送信した。)

新規ご利用者の受け入れの為、ケアスタッフルームに近い居室をショートステイ部屋として確保し、ご利用者の増加を計った。

急なキャンセル等で空床ができた場合にも、ご利用者様に直接空床情報をお伝えしていく事を積極的に実施していった。それと共に空床利用を積極的に実施していく事により、ショートステイの稼働を上げる事ができた。9月の稼働が最大で18.9であった。

その他、ホームページの更新など対応を継続した。

今年度も入所担当の支援相談員と連携を取り、入所待機者様からのショートステイの利用を活用し、入所とショートステイの稼働を更に上げる事ができた。

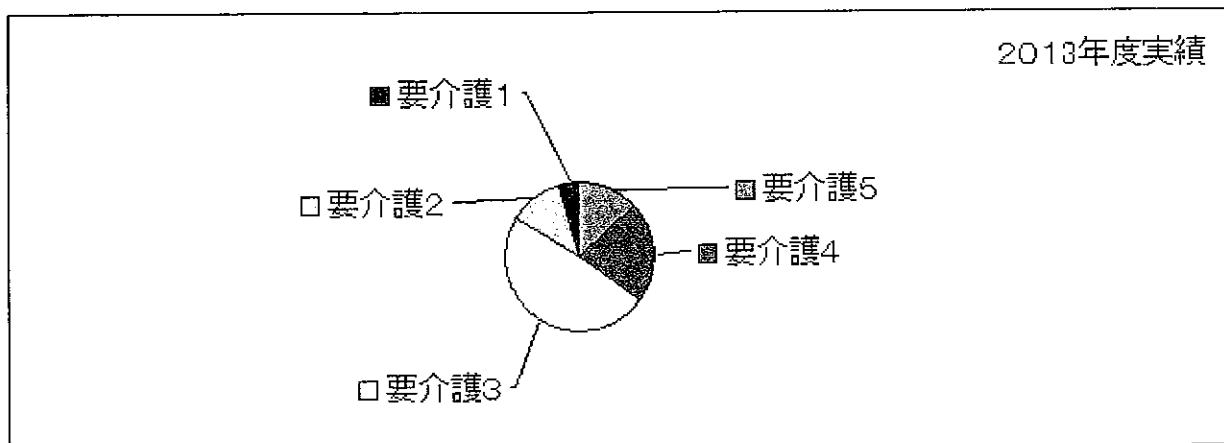
### <利用者の特徴>

平成25年度の新規契約者数は29名と昨年と比べてやや増加した。(昨年は22名)介護度別利用者人数は、藤美苑短期入所利用者では初めて要支援のご利用者が0であった。要介護度3のご利用者が1番多く、2番目に多いのは、前年度1番多かつ

た要介護4となり、その結果今年度の平均介護度は前年度の3.4から3.3に下がっている。

月別のご利用者数は別表のとおりで、1日平均 昨年の17.4人から17.7人と0.3人の増加となっている。

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	71	90	65	98	101	76	80	85	62	62	56	54	900
4	144	122	91	99	99	100	102	123	126	97	102	146	1351
3	194	208	242	261	258	269	297	289	288	315	260	251	3132
2	63	62	78	89	91	97	80	44	52	33	59	58	806
1	19	16	18	17	21	24	23	22	27	34	19	23	263
経過的要介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	491	498	494	564	570	566	582	563	555	541	496	532	6452





### (3)介護支援専門員

#### ◆ 認定調査

認定更新時、市の依頼により支援相談課、介護課、看護課、管理栄養士と連携をとりつつ入所者個々の状態を調査し、管轄の区役所に提出した。

名古屋市認定調査員研修（現任研修）に参加し、適切な認定調査が行えるように研修を受ける。入所者の状態変化により随時区分変更の申請をし、入所者が適正な介護の認定を受けられるように努めた。

名古屋市以外の保険者の認定更新時、保険者の依頼による認定の実施、及び認定調査員の立会いを行い、必要な情報の提供を行った。

前月の認定調査料の請求を月初めにまとめ、請求書を名古屋市に送付した。

認定調査// 25年度 34件実施

認定結果 34件中 (内、区分変更 3名実施)

介護度の変更のない方 21名

介護度が1上がった方 7名 介護度が2上がった方 1名

介護度が1下がった方 3名 他、結果が未の方 2名

#### ◆ 個別処遇

##### ケアプラン作成

ケアプラン検討会議 月、定例3回 25年度36回  
臨時 25年度4回 実施しました。

新規入所があった場合、入所日に暫定的なケアプランを作成し、ご家族の承諾を頂き、その後1ヶ月間の施設生活を踏まえ、ケアカンファレンスを開催し見直し修正を行い、今後のケアプランを作成した。

その後は、モニタリングや評価を実施することで、認定月に合わせ6ヶ月ごとにケアプランを見直ししている。又、退院その他状態変化が大きく見られた方は、適時カンファレンスを開き、適正なサービス計画作成に努めた。

ご本人、または身元引受人様にケアプランを確認頂き、サービス計画書1（フェースシート）に署名を頂き、実施の承認を得た。

ご本人やご家族の要望・意向は、ケアプランに反映させ支援相談課・介護課・看護課・管理栄養士が情報を共有する事で実現に努めた。

ケアプラン開始後は、各フロアーへ出向き職員からの情報や直接ご本人の状態確認を通して、小さな変化の発見や現状把握に努めた。

入所者の身体状態、精神活動状態に著しい変調が見られた場合、ご家族へ連絡

し場合によっては来苑頂き、対応の相談を行った。

リスクのある処遇の変更に関しては、メリット・デメリットをお伝えし、ご家族の意向に沿った処遇に決定し、状態観察を行い経過をお伝えするようになった

新人職員に、円滑にケアプランが作成できるように勉強会を行った。

新入所の方の新規ケアプラン 18 件作成実施した。

入所の実情調査に同行し、入所面接調査を行い面接調査表を作成し、入所判定の情報を適切に伝え、入所後のケアプラン作成の原案として使用した。

## (4)居宅介護支援

### <総括>

平成25年度は、次年度に担当介護支援専門員交代予定もあった為、単にこれまでのサービスを継続するのではなく、利用者や介護者にとって適切なサービス利用ができているかどうか、利用者・介護者の要望を再確認・再検討しながら、家族の訴えの裏側にある問題を専門的視点から理解できるよう努めた。

介護予防支援については、「本人のできることは出来る限り本人が行う」に引き続き心がけ継続して取り組むことができた。

サービス担当者会議や再アセスメント、モニタリング、サービス事業者への評価確認の実施も継続する事ができた。各種情報収集にも力を注ぎご利用者やご家族に対して適切な提供ができている。

### <介護保険サービス利用・その他相談について>

介護保険サービスに関する相談やその他高齢者支援サービスについての相談、依頼においては随時対応し、各種サービス、関係市町村や他の居宅支援事業者を紹介する等、柔軟な対応を行った。利用者を介護している家族も高齢となり、介護者自身の健康面や保険外サービスの相談を受ける事が多くなっている。

### <ケアプランについて>

家族への支援にも着目し再度利用者のアセスメントを実施しケアプランを見直すことが出来た。同時にかかりつけ医師や各サービス事業者へも訪問、文書、電話、FAXにて照会、相談及び意見を求めることも出来た。

### <サービス担当者会議>

全てのサービス事業者・かかりつけ医出席での担当者会議は、調整が困難であり、一部の参加により実施する担当者会議となったが、介護認定更新や身体状況の変化によるサービス内容の変更においてサービス担当者会議を実施することができた。尚、サービス担当者会議に出席できない事業者においては、事前に書面で回答をいただくことで当日の担当者会議において情報提供をすることに努めた。

### <ご利用者居宅訪問について>

毎月最低1回は確実に訪問し、継続して状況把握に努めた。

※ いきいき支援センターからの引き継ぎ依頼時期の問題で、2月に一件ご自宅への訪問ができなかったケースがある。

※ 高齢者のみの世帯のケースが増えた事もあり、介護保険サービス利用日以外に意識的に訪問を行ったり、介護者やサービス事業者と密に連携をとる事で安否確認に努めたが。

#### <情報収集や質の向上について>

名古屋市介護サービス事業者連絡研究会などへの参加により、他ケアマネジャーやサービス事業者との連携を維持したり、インターネットを利用することで情報収集やケアマネジメントサービスの質の向上に努めた。

#### <居宅介護支援担当者数について>

個々のケースについて、居宅サービス計画の検討・作成・最低月1回の利用者宅訪問・家族との情報交換・毎月のモニタリング及びサービス担当者会議の開催又は、担当者に対する照会等の継続により深く関わりを持つことができた。相談内容の多様化、認知症の進行・入退院による身体状況の変化等により早急な解決には至っていない。

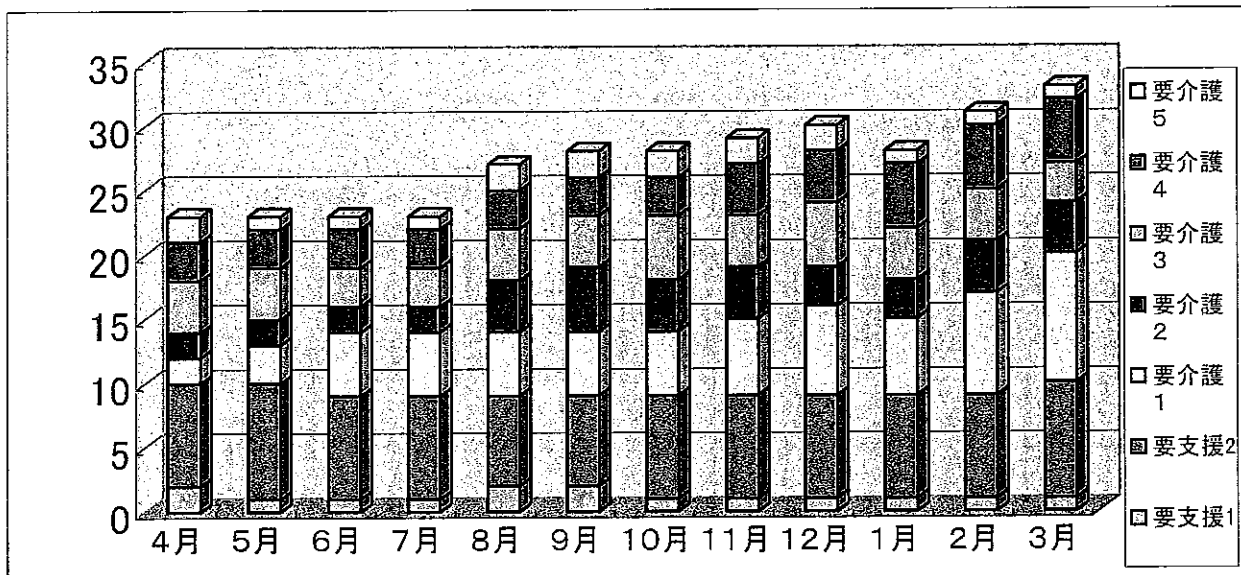
年度当初、利用者の永眠・長期入院などで、利用者数が減少したが、年度末に急に依頼増えた、新担当と相談しながら、迅速な居宅訪問を行い、受け入れに努めた。

新年度に入っても親切丁寧な相談・支援を継続できるような体制づくりに努めている。

25年度末の利用者は33名となっている。(要介護23名・要支援10名)

平成25年度居宅介護支援(ケアプラン)担当数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	2	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	15
要支援2	8	9	8	8	7	7	8	8	8	8	8	9	96
予防支援計	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	10	111
要介護1	2	3	5	5	5	5	5	6	7	6	8	10	67
要介護2	2	2	2	2	4	5	4	4	3	3	4	4	39
要介護3	4	4	3	3	4	4	5	4	5	4	4	3	47
要介護4	3	3	3	3	3	3	3	4	4	5	5	5	44
要介護5	2	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	18
介護支援計	13	13	14	14	18	19	19	20	21	19	22	23	215



## 2 介護指導

日本の介護情勢の変化に対応し、入所者の心身の状況に応じた適切なサービスの提供ができるよう、職員に対し研修・指導・教育・マニュアル等構築を目指しました。

介護職員に対して、藤美苑の基本理念を遂行するために会議等で意識させる、職員自身が「考えて行動・発言する、自立する」ことの出来る様な理想の職場環境を整えるため、まずは役職者中心に意識付けの助言や勉強会を行いました。

職員必携の見直し・教育・指導方法マニュアルの整備は、一部の計画・話し合いしか出来ませんでした。そのため職員の状況に応じた OJT や OFF-JT も不十分でしたが、人材育成（指導）は一部職員には実施できました。働きやすくゆとりのある職場環境の整備を目指し新設された「業務改善委員会」に参加し、現状の把握を基に改善の協力をしました。取り組みを振り返る機会は不十分でした。

新人職員への集中教育も不十分でしたが、介護福祉士国家試験・受験希望者の合格対策勉強会は模擬試験のみ実施、9名中4名の合格でした。

全スタッフのモチベーションアップとキャリアアップのための方策も提案・一部計画のみで不十分でしたが、来年度へ向けて希望のある話は出来ました。

感染症発生時の対応の振り返りを行い、全部署の協力を得ながらより具体的な対策・対応マニュアルの構築は実施出来ました。今後修正を行いながら良い物にします。

東日本大震災において、施設と地域との深い関わりが重要であったとの事から、未だ不十分であった地域福祉教育や地域交流を今まで以上に深めるために、外部からの研修生・実習生・ボランティア等の受入と交流・連絡について、一部書類の問題により実施出来ない面・不十分な面もありましたが、今後に生かせる事はできました。同時に職員に対し地域との交流の重要性を指導することは行いました。

苑内全職員・全部署が今まで以上に互いに協力・報告・連絡等ができる様な体制が構築出来るよう、役職者中心に日頃から話し合いを行いました。今後に生かします。

### 1 教育・業務・指導方法マニュアルの構築と職場環境改善

職員が働きやすくゆとりのある職場環境を常に考え、業務・教育・指導方法マニュアルの見直し・構築は不十分でしたが、今後に生かせる話し合いを行う事は出来ました。介護技術・設備・器具・指導方法等の見直し・具体的なマニュアル構築は一部作成はできました。業務改善委員会への参加等によって職場環境改善の協力はできました。マニュアルは今年度中の作成できませんでしたが、来年度に実施を目指します。

#### ※ 職員必携内容見直しと具体的な業務マニュアル作成について

職員必携の介護課に関連する内容の見直しは出来ませんでした。また職員必携には掲載されていない各階の業務内容と管理方法等、備品の使用・管理方法と操作方法など、具体的なものを場合によっては写真やビデオ撮影を用い、分かりやすい内容のものは一部作成しました。

#### ※指導・教育マニュアル構築と指導

「キャリアマップシート」について、基本理念を遂行しつつ、職員自身が「考えて行動・発言する、自立する」ことの出来る様な理想の職場環境を目指すために、内容検討を提案しました。それを基に「新人指導教育マニュアル」、「中堅職員（経験年数・能力で分ける）指導教育マニュアル」、「指導教育方法マニュアル」等の作成を現在使用・製作中のマニュアルも活用し実施を目指しましたが、製作にはかなり時間が必要で、次年度に繋がる話し合いは出来たので、今後に生かします。

「指導教育方法マニュアル」についても、介護課役職者全員で職員を「育成する」という意識を持って取り組むための話や勉強会は一部実施しました。職員の経験や性格・能力等に合わせた指導が出来るようなスキルを身につけ、現場で「各マニュアル」と「OJT」を用いて指導・教育・アドバイスをを行い、指導・教育結果を記録することで職員の現状を把握。施設内勉強会（OFF-JT）や外部研修、施設からの提供（SDS）の提案を行う事も併せて、職員の成長に繋がりたいという目標にたどり着くにはまだまだ時間が必要です。

職員の成長は「フロアーの自立・フロアーのカラー確立・ゆとり増加」に繋がりますが、上記の内容から今後の目標とします。

#### ※ 職場環境改善

職員が働きやすくゆとりのある職場環境にするために、介護課と協力して改善に取り組みました。介護現場にて業務を行うと共に「業務改善委員会」へ参加することで、現状の把握・問題点の把握を行い、業務改善するために現場職員への協力を行いました。マニュアル作成に役立てるには不十分でした。

業務のゆとりが出ることで、職員の考察・検討などの時間増加・入所者対応時間増加・ケアプラン等事務の時間・スキルアップのための時間・緊急時の冷静な対応・コミュニケーション時間増加などに繋がりますが、今後に生かせる内容になったと思います。

## 2 施設内勉強会の開催

各スタッフのキャリアレベルに応じ定期的にフィードバック研修を実施し、今の自分の立場をそれぞれが理解・把握し、チーム・組織への貢献ができるよう指導する内容は不十分でした。

知識・技術向上も視野に入れるため、必要に応じて外部から講師等を招くことも検討しましたが、実施出来ませんでした。自分達の介護の現状を知る・受け止める・学ぶ機会は一部出来ました。

### ※介護福祉士国家試験・受験希望者の合格対策勉強会

経験年数のみで受験できるのが最後となる平成 27 年度介護福祉士国家試験までに合格できるよう、苑内で受験希望者に対し「合格対策勉強会」の実施は、模擬試験のみ実施でした。9名中4名の合格でした。

## 3 感染症対策マニュアルの構築

全部署の協力を得て、感染症発生時の対応・問題点の振り返りを行い、正しい知識を得ながら具体的な対策・対応マニュアルの構築をしました。一部、写真やビデオ等を用いて分かりやすくする、看護課や医師の助言を得る、他部署との協力体制を考慮など、施設に即した内容にしました。今後、修正を行います。

## 4 研修生、実習生の受入れ

養成施設での新カリキュラム3年目となり、職員に適切な現場教育が出来るように指導し、介護福祉士養成という大切な役割を果たす事により社会貢献に努めていくよう実施しました。職員自身の介護に対する振り返りをしてもらい事も含め、介護福祉士・ホームヘルパー等の研修、実習の指導をしました。

## 5 ボランティア、福祉体験学習の受け入れ

東海地震等の震災時が起きた際に地域との協力を確立するために、未だ不十分である地域福祉教育や地域交流を今まで以上に深める事を目指し、中高生や地域の方々のボランティアを少しでも広く・多く受入れ地域社会との交流を図っていきました。近隣の保育園・小中学校から、学校教育の一環として福祉体験活動も受け入れていく事で地域福祉教育にも協力していきました。傾聴・音楽など日頃からボランティアさんが来られる様な環境を作ることも目指しました。

今まで実施してきたボランティアさんのイベントも一部修正をし、来年度より良い内容にするための形を作りました。



## 6 身体拘束廃止の研究

日常生活の中で安易な身体拘束が起こらない様な施設を目指し、各職員が一丸となって取り組めるよう、身体拘束廃止委員会を中心に現状把握・各職種との連携・協力を図りながら今後も積極的に拘束廃止継続に努めました。

## 7 施設外職員研修

福祉QCを推進し、かつフィードバック出来る体制を構築する事により、職員の自発的な業務改善を目指しました。

市社協・県社協その他民間機関での研修へ職員が積極的に参加できるように個々の意見・希望や能力を考慮して実施を目指しましたが、職員の積極性に不十分で、指導も含め今後の課題です。

※外部研修フィードバックのための発表会・OFF-JT など

外部研修を実施した職員が、その内容を苑内でフィードバックできるような環境の構築を目指しました。良い内容は苑全体の向上になりますし、研修に行った職員の「貢献」により、モチベーションアップにもなります。まだ不十分ですので、今後の早期実施を目指します。

## 8 専門性の追求

ご利用者個々の状態に応じた介護支援を図っていくため、介護福祉士としての専門性を追求し、介護・医療に対する知識向上のため、認知症介護実践研修、医療知識研修等への積極的な参加を目指しました。施設にて利用できる内容は積極的に取り入れるために、勉強会等でフィードバックできる体制を作ることなど改善を図りましたが不十分でした。今後の早期実施を目指します。

## 9 事故予防対応

事故予防検討委員会を介護・看護職員全員参加対象とし、毎月1回開催、予防・研究に努め、常に小さな兆しを発見する目を持つためのトレーニング等により未然に防ぐ努力をしていくことは、勤務の都合もあり出来ませんでした。それにより指導が不十分でした。来年度以降、同時に拘束や虐待といった項目とも関連付けてしっかり指導・実施をしていきます。

## 10 業務の振り返り

職員が業務の振り返りを行う機会をするために、指導や教育を行うだけでなく、時間が経過しても決められた事が行われているのかを全職員が振り返る事で、統一した業務・意識等を持つことを目指し、チェックシート等を用いて実施することも目指しましたが、一部職員しか実施出来ませんでした。今後の課題とします。

## 11 全部署の協力・報告・連絡体制の確立

日頃の業務や緊急時の対応など苑内全職員・全部署が今まで以上に互いに協力・報告・連絡等ができる様に、一部不正確な部分がある「全部署の協力体制+ハウレンソウ」の正しい確立を提案・協力しました。苑長から現場職員まで繋がっている事は、全職員の正確な情報の共有や意思統一、正確な言動・行動・協力となります。

しかし、役職職員が変わった事・また役職の役割を把握していない事による連絡等が出来なかった事も発生し、かなり混乱しました。

介護現場では今まで以上に混乱しました。他部署も混乱を招きました。年度末に対策を講じ始めましたので、今後早急に実施したいと考えます。

一度緊急時に各部署が協力し、各自が出来る事を最大限発揮し、迅速な対応をした事がありました。これは今後に生かせる良い例でありました。是非、今後に生かしたいと思います。

平成25年度 藤美苑職員会議 勉強会内容一覧

年月	内容	担当者
平成25年4月	5月病	松田
平成25年5月	水分補給	松田
平成25年6月	熱中症	松田
平成25年7月	実施せず(勤務の都合)	
平成25年8月	感染症・嘔吐処理(実技)	松田
平成25年9月	感染症・嘔吐処理(実技)	松田
平成25年10月	実施せず(勤務の都合)	
平成25年11月	身体拘束	松田
平成25年12月	感染症	松田
平成26年1月	感染症	松田
平成26年2月	感染症 花粉症 水分補給	松田
平成26年3月	体健康チェック!	松田

担当 松田

## 平成25年度 介護課勉強会 一覧

日時	内容	講師	参加者
5月30日	介護課会議内 勉強会① 拘縮予防と有効なポジショニング	安田次長	吉田・向郷・小塚・熊崎・松尾・松田 =6名
6月17日	レクリエーション講習会	宇野ケアリーダー	吉田・上田・松原・渡木・西田・手島 =6名
6月28日	介護福祉士模擬試験①	安田次長	上田・酒井・磯村・高田・松本・渡木・手島・柳生・竹市 =9名
8月12日	介護課会議内 勉強会②「職員育成と職場研修体制の確立に向けて」	松田課長	中村・向郷・小塚・吉田 =4名
11月8日他	介護福祉士模擬試験②	安田次長	上田・酒井・磯村・高田・松本・渡木・手島・柳生・竹市 =9名
2月26日	H25年介護課総合勉強会	安田次長	松尾・手塚・本多・酒井・磯村・高木・村井・松原・渡木・松本・田近・内藤・上田・戎・高田・福山 =16名

合計	50名
----	-----

平成25年度 特別養護老人ホーム藤美苑 実習・研修生受入状況

相手先名	実習・講習内容	受入人数	期間	延べ人数
名古屋市社協 社会福祉研修センター	ホームヘルパー2級養成講習	3名	7/1~7/3	9名
菊華高等学校	介護福祉士受験資格取得の養成実習(3年生)	3名	7/22~8/2	30名
ヘルパースクール カイ	初任者研修	3名	6/26	3名
ヘルパースクール カイ	初任者研修	3名	8/30	3名
ヘルパースクール カイ	初任者研修	3名	11/28	3名
愛知淑徳大学	教員免許特例法介護体験実習	5名	9/16~9/20	25名
愛知淑徳大学	教員免許特例法介護体験実習	5名	9/30~10/4	25名
振甫中学校	職場訪問活動	4名	10/25	4名
名古屋医療秘書福祉専門学校	介護実習Ⅱ(一人は1週で終了)	3名	11/11~12/6	45名
名古屋医療秘書福祉専門学校	介護実習Ⅰ	2名	2/3~2/28	40名

受入人数合計	34名	延べ人数総計	187名
--------	-----	--------	------

## 平成25年度 ボランティア来苑人数

### 1、夏期高校生ボランティア(中部善意銀行主催)参加人数

	参加人数	延べ人数
7月	0	0
8月	0	0
合計(1)	0	0

※H25年4月、何らかの問題で申込用紙関係の書類が届かず、実施出来ませんでした。

### 2、行事・個人ボランティア参加人数について

内容	参加人数	延べ人数
6月誕生会 アトラクション(合唱)	24	24
春里保育園 ふれあい訪問(6月)	22	22
夏祭り (8月・模擬店手伝い、盆踊り)	28	28
愛工大名電バスケットボール部 ボランティア体験(8月)	13	13
敬老祝賀会 アトラクション(工藤流 日本舞踊)	13	13
秋まつり ボランティア(11月・愛工大名電バスケット部生徒)	9	9
秋まつり アトラクション(11月 太鼓演奏)	7	7
11月誕生会 演奏(くらたんず)	3	3
愛工大名電高校 ボランティア体験(12月)	3	3
12月誕生会 演奏(銭太鼓)	3	3
あすなろお茶会(年11回 8月は例年中止)	5	55
ペーパーフラワークラブ(近松先生・年11回 3月は中止)	1	11
合計(2)	131	191

総数(1)+(2)	131名	191名
-----------	------	------

### 3 介護

#### <事故防止>

事故発生時トランシーバーを活用し、看護職員への早期報告対応に努めた。

月1回事故予防検討委員会の実施ができなかった。

事故報告書・ヒヤリハット報告書の見直しを実施し継続的に事故予防に努めた。

新規一般入所・ショートステイ・認知症進行者・危機感が欠乏されている方への対応として、日常の状態・行動をよく観察し必要に応じてセンサーマットを設置、作動時の早期対応に努めた。

身体状態や行動をよく観察することで、その方に適した介護用品（滑り止め防止クッション・滑り止めシート・自動ブレーキ付き車椅子・居室、フロアでのセンサー・低床ベッドなど）を利用し防止に努めた。

#### <ショートステイ>

- ・ ショートステイ利用中、医務、支援相談など他職種と連携をとりながら体調管理に努めた。
- ・ トラブルが起こらない様、支援相談係長とも連携を取りご利用者・ご家族への配慮に努めた。

#### <日常介護>

##### 日常生活

行事企画委員を中心に企画した春まつり・流しそうめん・夏祭り・敬老会・秋まつりなどの行事を通し季節感を感じながら楽しんで頂けるよう努めた。

毎月の誕生者には誕生会の開催により、入所者の皆様とケアスタッフでお祝いし、ふれあい訪問・レクリエーションを行い楽しんで頂いた。

予定していたクラブ活動の実施ができなかった。

七夕の日には笹に飾り付けや短冊に願い事を書いたり、クリスマスツリーの飾り付けを行ない、節分には鬼に扮した職員を追い払い雰囲気作りと季節感を感じて頂いた。

ご家族や入所者の意向を反映させた外出を企画し実施することができた。

老人福祉施設作品展に向け、担当者・創作クラブを中心に「昔話 一寸法師」をテーマに作品作りに取り組んだ。

各職員がご利用者にあったフロアでのレクリエーションを季節に合わせ実施した。

##### クラブ活動

書道クラブ・・・クラブ活動なし、各フロアで新年に実施した

創作クラブ・・・老人福祉施設作品展に向けた作品作りを実施した。

(活動回数：7回 参加延べ人数：42名)

ペーパーフラワークラブ・・・外部からの講師企画による季節ごとの作品作成を実施した。

(活動回数：12回 参加延べ人数：96人)

園芸クラブ・・・サツマイモ、枝豆、とうもろこし、米などを栽培し入所者の方と収穫をした。

(活動回数：4回 参加延べ人数：45人)

お楽しみ外出・・・デザート、寿司、モーニングなど外食、クラシックコンサート、ビール工場見学、初詣、お祭り、相撲見学、自宅など

(活動回数：18回 参加延べ人数：43人)

## 食 事

食事摂取状況に合わせ座席を検討し安全な食事の提供に努めた。また入所者同士のコミュニケーションが取りやすいようにも座席の配慮をした。

食事場所が一目で分かるように、又食事時に必要なエプロン等の使用物品及び食事・水分摂取量チェック者、トロミ使用者を把握しやすいように名札を工夫し対応した。

食事の形態・摂取状況・摂取量を観察・記録し、必要に応じて管理栄養士・看護課・介護指導課と相談することでその方に合った食事の提供に努めた。

嚥下困難者には状態をよく観察し、その方に必要な分だけトロミの使用やお茶ゼリーの提供を行いむせない水分補給を行った。

食事準備前にはマニュアルに沿った手洗いをを行うことにより、清潔保持・食中毒予防に努めた。

入所者には食事前には手洗い又はおしぼりで手を拭き、セラ水で消毒を行ない、食中毒予防に努めた。

状態に合った食事補助器具（自助食器・軽食器・自助スプーン・取って付きお碗・多目的ボトルなど）を検討し、自力摂取しやすい環境作りや介助を行なった。

介助を行う入所者の目線や飲み込んだ事が分かるよう、移動式の椅子に座り介助を行う事で、その方に合った介助のタイミングや誤嚥の予防に努めた。

## 排 泄

定時トイレ誘導・随時のトイレ誘導、おむつ交換を行う事により、排泄の状態把握を行い体調管理に努めた。

排泄介助の際にはカーテンを閉める事によりプライバシーの保護に努めると共に皮膚の観察を行い、湿疹・褥瘡など異常が見られれば看護師に報告し、早期発見、早期対応に努めた。

排泄チェック表の活用により排便間隔を把握し、必要に応じて看護課に報告・相談を行った。

ノロウイルス感染予防として、排泄介助時のマスク着用・両手使い捨てゴム手袋着用し、汚物処理は都度ビニール袋に包み破棄した。また排泄介助実施後毎回ワゴンの消毒に努めた。ノロウイルスの発症を抑えることができた。

皮膚のただれ、摩擦による皮膚めくれなど褥瘡に結びつくような症状には、ワセリンの塗布・ラップを貼る等行い悪化の予防を行った。

## 入 浴

入浴時においては、疥癬や褥瘡をはじめとする皮膚疾患・怪我等の早期発見の為にボディチェックを行い、異常が見られればすぐに看護師に報告し早期対応に努めた。

入浴後に爪切りを行い身体清潔に努めた。

ショートステイ利用者の情報が他階のケアスタッフにも伝わるように、個人情報用紙を作成し、入浴時のトラブル・事故の予防に努めた。又、衣類紛失防止の為に洗濯ネットを有効利用したり、洗濯物の出し入れが分かるチェック表を活用した。

季節に合わせた脱衣室の室温調整、入浴前の湯温計測により入浴に適した温度調節を行った。



入浴者の誘導忘れや入浴前の状態が分かる様、誘導表を使用し状況に合わせた対応を行った。

月ごとに入浴剤を変えて、色や香りを楽しんで頂いた。又、菖蒲湯の菖蒲や柚子湯の柚子などを風呂に浮かべ季節感を味わい楽しんで頂いた。入浴後硫黄成分の入ったかけ湯を実施し疥癬の予防に努め、疥癬発症はなかった。

身体状況に合わせ安全に入浴して頂けるよう入浴場所や方法を随時検討した。又、ストレッチャーの高さを調節することにより特浴ご利用者の安全な移乗や介護職員の負担軽減を図った。

### 身体拘束

25年度は拘束行為はなかった。身体拘束廃止委員会を毎月開催した。新人に対し身体拘束0について研修を実施した。

### 環境

清潔な寝具を使用して頂く為、チェック表を活用し定期的なシーツ交換を行った。又、シーツを交換する際の布団干し、ベッド周辺を硫黄のうすめ液で拭く事によりダニ駆除に努め又、セラ水で拭くことで除菌や消臭に努めた。風邪や感染症予防として、談話室に大型加湿器・プラズマクラスター・次亜塩素酸水噴霧器(スザク水噴霧器)の設置を行い、ケアスタッフは冬場の出・退勤時にカテキンの含まれているお茶にてうがいを実施した。

温度・湿度計を確認し、状況に合わせ冷暖房の調節や加湿器の設置を行い快適に過ごして頂けるよう努めた。

食中毒予防の為、ご家族様からの差し入れを職員管理し食中毒の発生はなかった。

居室担当中心による居室整理が適切に行うことができずご家族様やご利用の方にご迷惑をおかけすることになってしまった。事故予防の為居室等の環境を検討し、必要に応じて危険な物は取り除くなど事故防止に努めた。

季節に合わせた衣類を着用して頂けるよう衣替えや必要衣類は生活相談員を通じご家族へ依頼した。又、苑内での衣類販売も利用して頂き楽しみながら衣類の準備ができた。

### その他

入所者の状況を福祉見聞録に記録する事により、交代勤務でも常に状態が把握できるようケアスタッフ間の情報の共有を行った。又、連絡ノートを活用しケアスタッフ間の連絡・注意事項を記入し業務の円滑化を図った。

各階の係長・ケアリーダーを中心に入所者の状態・処遇を把握することでフロアの活性化を行い、支援相談課・介護指導課・看護課・管理栄養士とも連携をとり、入所者の状態の安定や事故等に早期対応することで、より良いサービスの提供に努めた。

フロアミーティングを実施し業務の見直しや連携を深めた。

フロアスタッフから問題点をとり上げ、改善に向け検討していく「業務改善委員会」を設置し、よりスムーズな業務の改善に取り組んだ。

## ノロウイルス・インフルエンザ・黄砂対応

感染症予防対応マニュアルを新たに作成し全職員が周知することができた。  
ノロウイルス、インフルエンザ、疥癬など発症なく終えることができた。  
天気予報などの黄砂情報や空の状況を確認し、黄砂が上空を覆っている際には窓を開けないなど注意を行った。

## 入所者の状況

年齢別表(H26.3.31)

年齢	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	
男											1	1
女							1			1		2
計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3

年齢	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	
男					1		2	1	1			5
女				1				2	3	3	2	11
計	0	0	0	1	1	0	2	3	4	3	2	16

年齢	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	
男		1		1		1	1		1		5
女	2	2		1	3	4	4	7	3	3	29
計	2	3	0	2	3	5	5	7	4	3	34

年齢	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	
男			1		1						2
女	1	3	2	7	4	1	1	1	1	2	23
計	1	3	3	7	5	1	1	1	1	2	25

年齢	101	102	103	104	105	計	
男							
女	1	1					2
計	1	1	0	0	0	80	2

平均年齢 85.8歳 ( 男性 81.2歳 女性 86.8歳 )

月別面会者数(H25.4.1~H26.3.31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
人数	253	292	280	246	275	288	281	258	281	308	238	275	
合計	3,275			人	1か月平均			272.9	人	1日平均		8.9	人

資料

(1) 入退所の状況(人)

	23年	24年	25年
退所者	22	23	16
新規入所者	20	25	17

(2) 入所者の年齢別(各年度末・人)

	23年	24年	25年
70歳未満	2	2	2
70～	5	3	4
75～	11	12	11
80～	16	14	9
85～	20	25	24
90～	15	14	17
95歳以上	8	9	13
合計	77	79	80
平均年齢	84.9	85.8	86.9
男平均年齢	79.2	81.2	82.1
女平均年齢	86.1	86.8	87.8

(3) 入所者の性別(各年度末・人)

	23年	24年	25年
男	14	14	13
女	63	65	67
合計	77	79	80
女性の割合	81%	82%	83%

最高 102歳

最低 66歳

(4) 入所者のADL割合(%)

入浴

	23年	24年	25年
自立	5	7	4
一部介助	48	46	40
全介助	47	47	56

着脱衣

	23年	24年	25年
自立	12	16	11
一部介助	44	41	41
全介助	44	43	48

排泄(昼)

	23年	24年	25年
自立	10	16	14
一部介助	48	42	36
全介助	42	42	50

食事

	23年	24年	25年
自立	47	49	51
一部介助	34	27	25
全介助	19	24	24

排泄(夜)

	23年	24年	25年
自立	10	11	10
一部介助	15	17	29
全介助	75	72	61

体位変換

	23年	24年	25年
自立	30	34	36
一部介助	23	35	35
全介助	47	31	29

室内移動

	23年	24年	25年
自立	29	22	32
一部介助	26	33	29
全介助	45	45	39

平成26年3月31日 現在

## 平成25年度 事故報告数・結果一覧

時刻	時刻	件数	時刻	件数	場所	件数	内容	件数
>=0:00	<1:00	1	0:00～	1	1F居室	10	転倒	36
時刻	時刻	件数	1:00～	2	2F居室	10	転落	7
>=1:00	<2:00	2	2:00～		3F居室	12	怪我	20
時刻	時刻	件数	3:00～	2	1F居室トイレ	2	打撲	6
>=2:00	<3:00		4:00～	2	2F居室トイレ	1	異食	
時刻	時刻	件数	5:00～		3F居室トイレ	2	誤嚥	2
>=3:00	<4:00	2	6:00～	6	1F身障者トイレ		誤薬	2
時刻	時刻	件数	7:00～	3	2F身障者トイレ	1	感染症	
>=4:00	<5:00	2	8:00～	2	3F身障者トイレ	1	その他	9
時刻	時刻	件数	9:00～	4	1F廊下	1	滑落	10
>=5:00	<6:00		10:00～	5	2F廊下	3	破損	
時刻	時刻	件数	11:00～	5	3F廊下	2	紛失	1
>=6:00	<7:00	6	12:00～	6	1Fホール	3		
時刻	時刻	件数	13:00～	7	2Fホール	6		
>=7:00	<8:00	3	14:00～	7	3Fホール	19		
時刻	時刻	件数	15:00～	8	2F食堂	5	計	93
>=8:00	<9:00	2	16:00～	5	2F一般浴室	6		
時刻	時刻	件数	17:00～	6	1F特浴室			
>=9:00	<10:00	4	18:00～	11	その他	9		
時刻	時刻	件数	19:00～	5	計	93		
>=10:00	<11:00	5	20:00～	1				
時刻	時刻	件数	21:00～	1				
>=11:00	<12:00	5	22:00～	3				
時刻	時刻	件数	23:00～	1				
>=12:00	<13:00	6	不明					
時刻	時刻	件数	計	93				
>=13:00	<14:00	7						
時刻	時刻	件数						
>=14:00	<15:00	7						
時刻	時刻	件数						
>=15:00	<16:00	8						
時刻	時刻	件数						
>=16:00	<17:00	5						
時刻	時刻	件数						
>=17:00	<18:00	6						
時刻	時刻	件数						
>=18:00	<19:00	11						
時刻	時刻	件数						
>=19:00	<20:00	5						
時刻	時刻	件数						
>=20:00	<21:00	1						
時刻	時刻	件数						
>=21:00	<22:00	1						
時刻	時刻	件数						
>=22:00	<23:00	3						
時刻	時刻	件数						
>=23:00	<24:00	1						
不明								
計								93

■昨年度より1件増であった。  
 転倒が11件増の36件であった。  
 誤薬は5件減の2件であった。  
 滑落も6件減の10件であった。

## 4 看護

### <健康管理について>

- ① 月1回 体重測定・血圧測定実施。
  - ② 年1回 健康診断実施（レントゲン撮影：6月・採血：11月）
- を実施し、管理栄養士と連携を図る事で健康管理を徹底した。

### <健康状態の把握について>

嘱託医診察（週2回 火曜・金曜日 13:00～）を通して、日常生活における相談及び対応指示を頂き健康状態の安定に努めた。また、嘱託医では対応困難な方（採血が必要な方 皮膚科疾患の方）は他の往診医に管理お願いし、その指示のもと適切に対応できた。

### <疾病予防について>

疾病の早期発見・早期治療に努めた。  
毎年実施しているインフルエンザ予防接種のみでなく、肺炎球菌ワクチン予防接種を希望された全入所者に接種実施できた。

### <リハビリについて>

- ① 月1回 理学療法士指導（第1木曜日 14:00～）
  - ② 週1回 看護職員により実施（週1回程度）  
参加者（各フロアーにて実施）  
内容 簡単な上下肢の運動等
- 上記により実施したが、個別ごとでのリハビリ対応としては不十分な部分もみられた。

### <救急について>

緊急の場合は、救急車対応にて医療機関へ早期受診を行い、適切な治療をうけられるよう努めた。また、医療職以外の職員も救急法をできるよう救急蘇生法の定期的な研修を実施した。

### <精神科医指導について>

小林メンタルクリニック（月2回 第1・3月曜日 13:00～）による適切な指導のもと対応する事が出来た。

### <歯科について>

丹羽歯科 往診（随時 14:00～）  
内容 義歯作成・修理・調節、根管治療・充填、抜歯 等  
上記により必要ある際は都度対応する事ができた。

### <耳鼻科について>

竹田耳鼻科 往診（月1回 13:00～）  
内容 簡易聴力検査、耳垢除去 等

上記により適切な治療に努めた。

<受診状況について>

他科受診の必要性がある場合、疾病のレベル・長期に渡って症状が改善しない方に対しそれらに適した先生に診て頂くことができた。

<疾病状況について>

入所者の疾病状況については表 参照。

<看護記録について>

福祉見聞録(パソコン)への入力で統一図れた。

<胃ろうについて>

胃ろう増設者の対応を協力提携医療機関と連携を図って滞りなく行うことができた。

尚、添付の諸表は平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 迄のものとなっています。

入所者受診状況

(H25.4.1～H26.3.31)

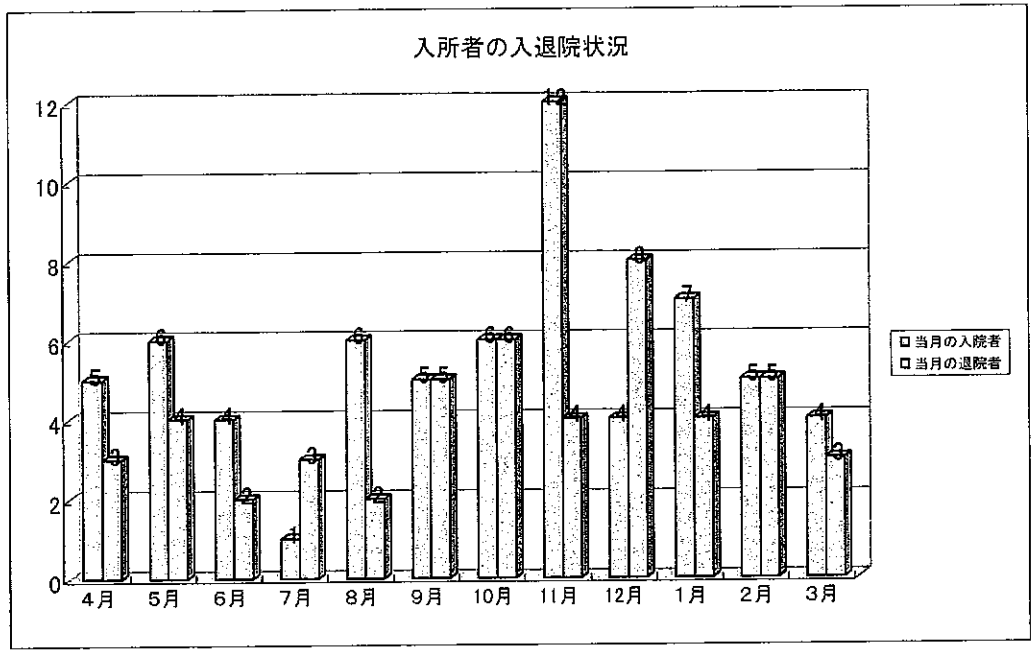
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
吉田病院	10	22	13	14	15	8	24	14	16	18	17	8	179
東部医療センター 東市民病	2	2	5	1	5	10	8	7	4	7	7	9	67
堀内クリニック	2	1	0	1	3	3	1	0	2	3	0	3	19
岡田皮膚科	5	6	6	7	2	11	13	10	6	8	5	6	85
竹田耳鼻科	0	1	0	4	0	0	0	2	1	1	0	1	10
茶屋が坂皮膚科	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
長谷川眼科	0	0	6	8	0	6	3	5	1	11	0	11	51
江口整形	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	3	8
八事日赤病院	2	0	1	1	0	1	3	1	1	6	0	0	16
東海病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
丹羽歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	3	2	10
光ヶ丘内科クリニック	1	0	3	1	1	0	2	1	1	2	1	17	30
茶屋が坂眼科	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
いすみが丘クリ ニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛知学院大学歯 学部	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
計	22	32	34	37	26	39	60	40	40	60	36	60	486

《入所者の入退院状況》

H25.4.1～H26.3.31

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
当月の入院者	5	6	4	1	6	5	6	12	4	7	5	4	65
当月の退院者	3	4	2	3	2	5	6	4	8	4	5	3	49





《住診の診察状況》 H25.4.1～H26.3.31

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小林メンタルクリニック(精神科医指導)	13	14	14	14	17	16	17	20	19	21	22	19	206
竹田耳鼻科	14	19	20	20	16	20	19	16	16	19	17	21	217
丹羽歯科	3	1	4	1	3	13	5	8	8	8	6	10	70
嘱託医 診察	14	21	19	12	23	17	25	19	16	18	19	13	216
嘱託医 薬受け	54	53	30	55	51	44	50	58	55	64	46	52	612
光ヶ丘内科クリニック	18	40	20	19	20	20	19	12	22	26	22	22	260
はずみが丘クリニック	10	11	9	10	9	9	9	10	10	11	10	10	118

入所者の疾病状況(2名以上の疾病)

(H26.3.31)

疾病名	人数	疾病名	人数
認知症	76	慢性膀胱炎	2
便秘症	74	パーキンソン症候群	2
アルツハイマー型認知症	12	腰椎圧迫骨折	2
レビー小体型認知症	1	低NA血症	2
高血圧症	46	腎盂腎炎	2
脳梗塞後遺症	28	梅毒	2
心不全	15	心筋梗塞	2
骨粗鬆症	14	TIA	2
糖尿病	17	ペースメーカー増設後	2
硬膜下血腫	8	慢性中耳炎	2
脳出血	6	構語障害	2
乳癌術後	5	不安神経症	2
変形性膝関節症	7	低K血症	2
高脂血症	7	前立腺肥大	3
慢性胃炎	7	貧血	3
胆石症	9	腰痛症	2
白内障	13	C型肝炎	2
緑内障	4	腸閉塞	2
うつ病	4	多発性脳梗塞	2
変形性腰椎症	3	糖尿病性網膜症	2
COPD	4	逆流性食道炎	3
鉄欠乏性貧血	5	浮腫	3
高尿酸血症	3	大腸憩室	2
胃瘻増設後	6	甲状腺機能低下症	2
てんかん	6		
不眠症	4		
胃潰瘍	4		

## 5 栄養指導

### <行事食>

暦の上の行事にあった食事の提供を行った。季節感を味わって頂き食事の内容に変化を持たせることで、食事に対する興味を持って頂けるよう努めた。

#### 25年度に実施した行事食一覧

行事食	月 日	内 容
春まつり	4月 13日	朝食：ストロベリーデニッシュと桜あんぱん・ストロベリーデニッシュ粥、小鉢、スープ ※パン外注/メルペール 昼食：花見弁当（割子弁当） ちらし寿司、サワラの西京焼き、だし巻き卵、 菜の花の辛子和え、いちご、吸い物 おやつ：苺・抹茶ババロア、桜茶
うなぎの日	6月 15日	うなぎ御膳（割子弁当）※うなぎ外注/仁王
流しそうめん	7月 6日	本物の竹を使用
夏祭り	8月 3日	模擬店で、焼そば、たこ焼き、カレーライス、枝豆、 から揚げ、フライドポテト、すいか、かき氷、ビール（生ビール、ノンアルコールビール）、ジュース・ お茶
敬老会	9月 13日	祝い膳（割子弁当）、紅白饅頭
秋まつり	11月 9日	昼食：鮭いくら御飯弁当（割子弁当） おやつ：南瓜モンブラン、フレーバーティー
鍋の日	12月 6日 1月 18日 2月 15日	寄せ鍋 味噌ちゃんこ鍋 鶏塩鍋
おせち料理	1月1日～3日	お正月の気分を味わって頂く
七草粥	1月 7日	七草粥
節分	2月 3日	節分ちらし寿司
ひな祭り	3月 3日	ひなちらし寿司
毎月誕生会	毎月第2月曜日	割子弁当、ケーキ

### <選択食>

毎月1回（4月6月8月10月12月は平日、それ以外は土曜日）、昼食は主菜2種類から好きなものを選んで頂ける選択食とし、聞き取り調査は当日の朝にサンプルを実際に見ていただきながら実施した。入浴日の方には入浴前または入浴後に聞き取りするなど、全員に聞き取り調査をできるように努めた。

### <適温・適時>

- ①適温 2階食堂についてはカウンターより対面配膳を行い、冷たい物は冷蔵庫、  
温かい物はウォーマーで配膳直前まで温度管理した。  
3階食堂については温冷配膳車を使用し、常に適温で食事ができるよう努めた。

②適時 できる限り家庭に近い食事時間を設定し、確実にその時間に提供できるよう努めた。

食事時間	
朝食	8：00～
昼食	12：00～
夕食	18：00～

#### <調理技術>

入所者、利用者の状態にあった食材料の選択、調理法の工夫、味付け、盛り付け、彩りに気を配り、栄養士、調理員にて検討を行う事によって、おいしく、愛情のこもった食事を提供できるよう努めた。また、新しくスチームコンベクションを導入した為、栄養士・調理師にて検討を行い、より美味しい料理提供が出来る様努めた。

#### <献立>

入所者からの直接の声などを献立作成時に参考にした。焼きそば、炊き込みご飯などは入所者のリクエストにより、献立に用いた。

#### <喫茶>

甘味はアイスクリームに加え、ケーキ（ロールケーキ）と期間限定でかき氷、フロート類を提供した。

#### <個別処遇>

入所者、利用者それぞれの状態に合わせた食事形態で提供できるよう努めた。食事の様子を拝見し、変更を要する方については、介護職員・看護職員と検討しながら、食事形態の変更を実施した。又、自助具を取り入れることによって残存機能を維持し、できる限り自力で食べることの楽しみをもって頂ける環境作りに努めた。

#### <食事形態別食数>

平成25年3月末日現在の食事形態種別は表 参照

#### <検査食>

毎食時、入所者、利用者に提供する前に数人の職員によって検査食を実施した。検査食を行った職員は主食の炊き具合、盛り付け、色彩、味付け、分量などの評価と感想を検査簿に記入し、それを献立作成時に参考にした。

#### <厨房内衛生管理>

##### ① 厨房内衛生管理

厨房内は毎日の通常清掃と業者による定期的なねずみ・害虫等防除作業を行い、常に衛生的な環境を保持できるよう努めた。

##### ② 食品衛生管理

食品が納入された時点で検収を行い、品質、温度、賞味期限等の確認を行った。

##### ③ 機器・食器入れ替え

厨房機器では、ソフト食導入に向けて冷蔵庫を購入。

その他の厨房機器は定期メンテナンスを行い、必要に応じて修理した。

また食器については、不足すると速やかに補充できるよう在庫をもち、業務に支障が出ないよう努めた。

#### <職員衛生管理>

直接食事介助する職員・パート職員を対象に、衛生管理の為の便保菌検査を年2回実施した。

又、食事介助の際には手洗いの実施を徹底した。

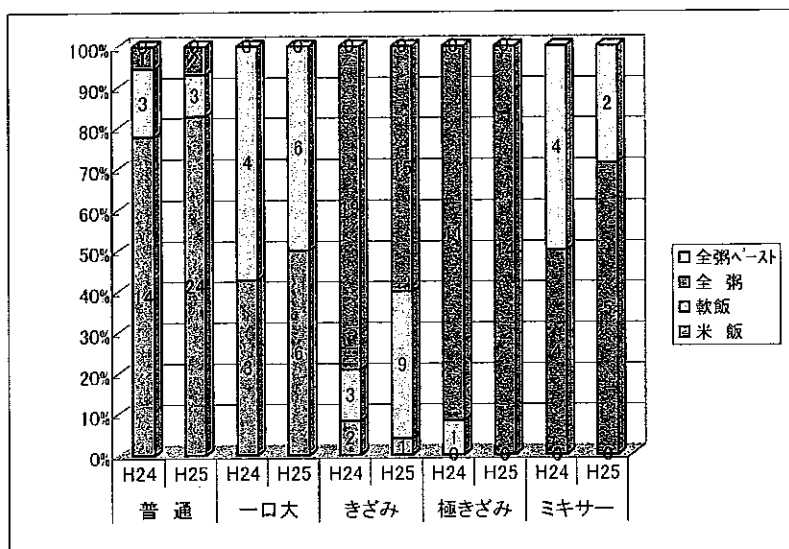
#### <栄養ケアマネジメント>

入所者の日常的な生活の営みである「口から食べることを優先的な課題とし、単に体重や血液検査数値といった栄養指標の改善を目指すに留まることなく、適正な「栄養ケア」を提供し要介護状態の予防や重度化の予防に努めるため、多職種と共同して栄養ケアマネジメントを行った。

表 入所者食事形態種別(前年度比較)

		副 食										合 計	
		普 通		一 口 大		き ざ み		極 ぎ ざ み		ミキサー		H24	H25
		H24	H25	H24	H25	H24	H25	H24	H25	H24	H25		
主 食	米 飯	14	24	3	6	2	1	0	0	0	0	19	31
	軟飯	3	3	4	6	3	9	1	0	0	0	11	18
	全 粥	1	2	0	0	19	15	11	14	4	5	35	36
	全粥ペースト	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	4	2
合 計		18	29	7	12	24	25	12	14	8	7	69	87

(平成26年3月31日現在)



平成25年度給食食数

区 分		米 飯					計	軟 飯					計	全 粥					計	特別対応			計	合 計
		普通	一口大	きざみ	極刻み	ミキサー		普通	一口大	きざみ	極刻み	ミキサー		普通	一口大	きざみ	極刻み	ミキサー		胃ろう	エンゼリョイ			
入 所	合計	16924	3368	2192	0	0	22484	2396	5074	5425	675	0	13570	1446	17	16653	13322	6690	38128	3682	5462	9144	83326	
	%	20%	4%	3%	0%	0%	27%	3%	6%	7%	1%	16%	2%	0%	20%	16%	8%	46%	4%	7%	11%	100%		
	1日平均	46	9	6	0	0	61	7	14	15	2	0	38	4	0	46	36	18	104	10	15	25	228	
シ ョ ー ト	合計	5004	2364	393	0	0	6677	298	2559	3225	0	0	5620	616	24	2201	1629	136	5645	0	0	0	17942	
	%	28%	13%	2%	0%	0%	37%	2%	14%	18%	0%	0%	31%	3%	0%	12%	9%	1%	31%	0%	0%	0%	100%	
	1日平均	14	6	1	0	0	21	1	7	9	0	0	17	2	0	6	4	0	12	0	0	0	50	
テ レ ビ	合計	1490	45	120	0	0	1743	403	27	5	15	0	400	12	0	236	87	87	429	0	0	0	2572	
	%	58%	2%	5%	0%	0%	68%	16%	1%	0%	1%	0%	16%	0%	0%	9%	3%	3%	17%	0%	0%	0%	100%	
	1日平均	4	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	6	

## 6 デイサービス

### <サービス内容の充実>

- 9時45分から17時まで、祝日（5/3, 4, 5除く）を営業し在宅介護の必要な方に通苑していただき、ご家族の介護負担を軽減しました。
- 予防通所介護事業を行い要支援状態にある方の身体機能の維持向上を支援しました。
- 口腔ケア、口腔体操、グループ別リハビリを毎日行い、ご利用者の口腔機能の維持向上、病気や転倒の予防を支援し好評を得ました。
- 通所介護計画書、予防通所介護計画書を作成し、各ご利用者にあったサービスを提供しました。

### ○レクリエーション活動

個別レクリエーションの時間を作り利用者一人ひとり希望されたレクリエーションを実施しました。

季節の趣に合った催しを定期に実施しました。4月、平和公園にお花見へ外出し季節を感じて頂きました。5月、五月の会として、兜飾りを設置し、柏餅風ホットケーキのクッキングを行いおやつ時間に召し上がって頂きました。6月、千種公園へゆり、茶屋ヶ坂公園へあじさい見学を実施しました。7月、願い事を書いた短冊などを笹に飾り付け、型抜きアートのカードを作成しました。8月、盆踊りと輪投げ、射的など景品付きゲームやカキ氷、綿あめを作り夏祭りを演出し楽しんで頂きました。9月、敬老会にて手形を作成し、記念品は、事前に希望を聞いて靴下やタオルなどの実用品を贈りました。10月、近隣公園へ出掛け秋の雰囲気を楽しんで頂きました。11月、旬の食材を使ったお菓子作りを行い喜んで頂きました。12月、年忘れ会、職員が扮装しクリスマスビンゴ大会とカップケーキ作りを行い楽しんで頂きました。1月、初詣に上野天満宮へ外出を行いました。2月、鬼に向かって豆まきして、節分にちなんだゲームを実施しました。3月、春の会と称し、お茶会と全員でフラワーアレンジメントを行い楽しんで頂きました。

### ○送迎

長時間乗車によるご利用者の疲労軽減と業務の効率、ご家族の希望を聞きながら送迎の見直しを随時実施しました。

### ○くつろぎタイム

入浴待機時間の充実を図る為、作品づくりを行い、共同作品としてダイルールの壁等に飾りつけをしました。

### <利用人数の確保>

ご利用者及び関係のケアマネジャーへパンフレットや毎月空き情報を作成し新規利用者紹介を依頼しました。今年度、月平均9.9名と前年を下回ってしまった。新規利用者獲得に向けて新たな対策を早急に検討し実施していく。

### <デイサービスだより>

3か月毎にデイサービスだよりを発行し、ご家族様やケアマネジャーにご利用者の状況をお知らせしました。

### <ご家族との関係>

個人情報利用の手続きを得て利用中のレクリエーション、季節行事、外出の様子等

写真を配り、活動内容をお知らせしました。ご家族のご要望に積極的に対応し又、ご利用中の変化等については迅速に連絡し対処できました。

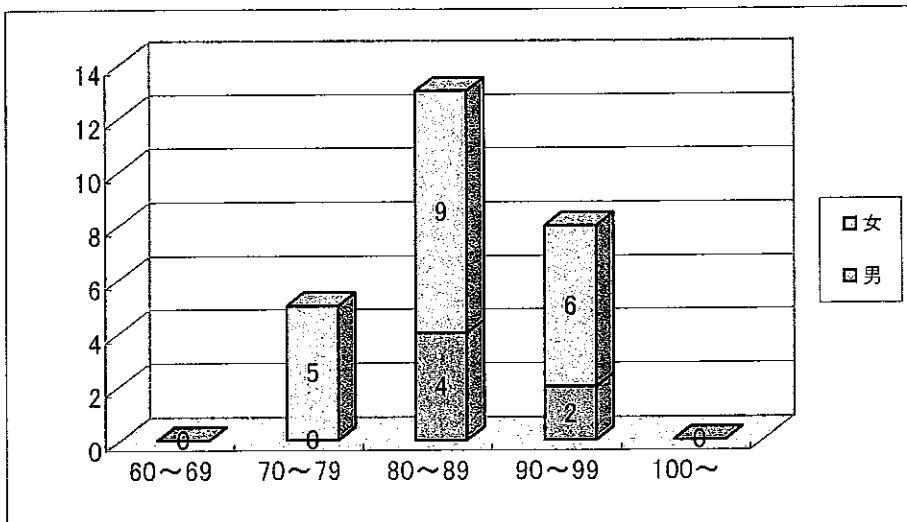


デイサービス利用状況

(平成26年3月31日 現在)

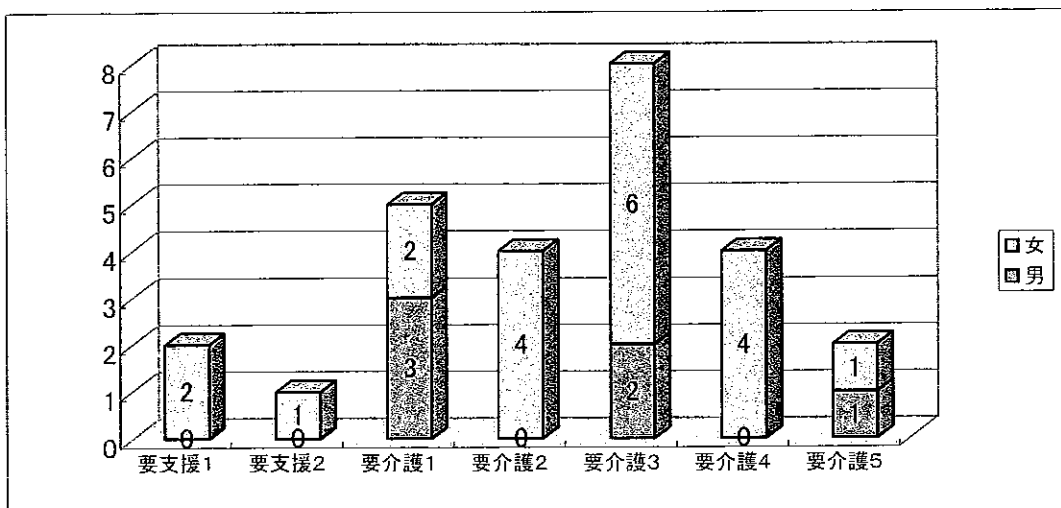
(1)年齢別利用者数

	60～69	70～79	80～89	90～99	100～	合計	平均年齢
男	0	0	4	2	0	6	88.7
女	0	5	9	6	0	20	84.6
全体	0	5	13	8	0	26	86.7



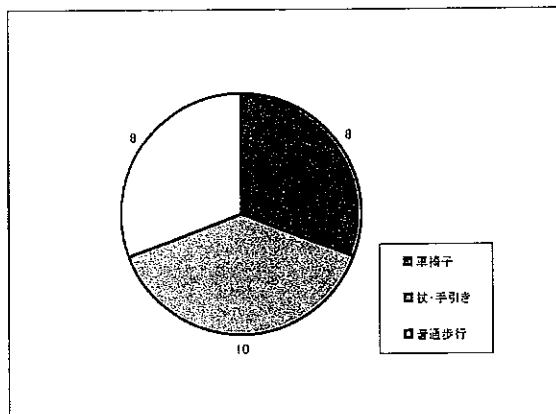
(2)介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
男	0	0	3	0	2	0	1	6	2.33
女	2	1	2	4	6	4	1	20	2.45
計	2	1	5	4	8	4	2	26	2.39



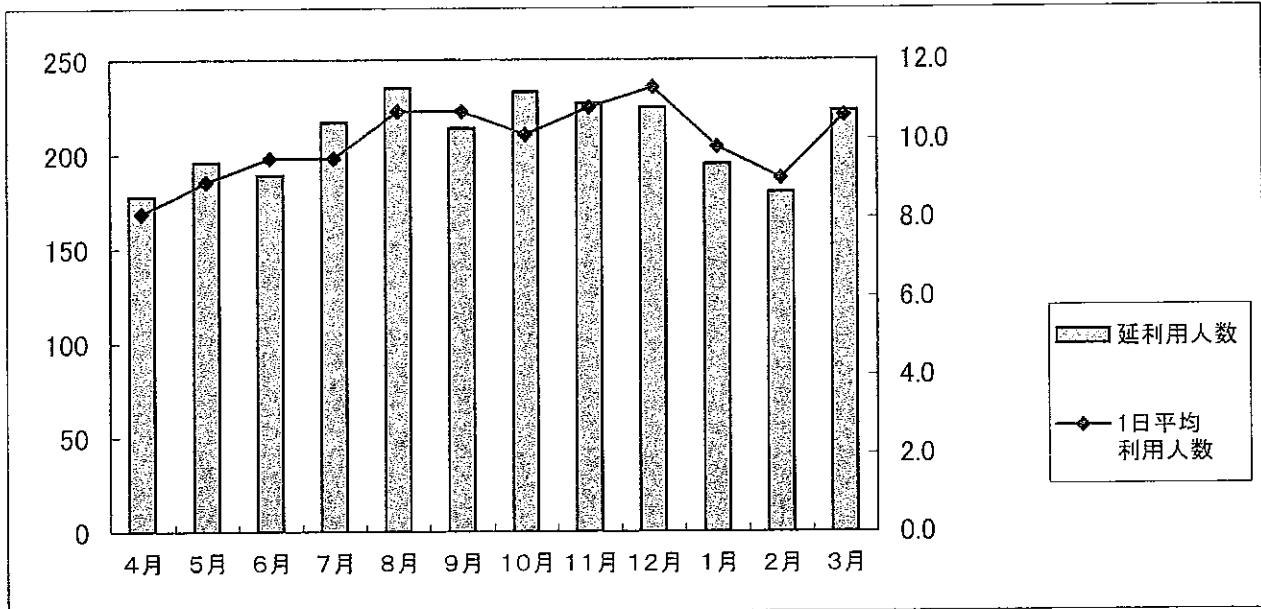
(3) 歩行ADL別利用者数

車椅子	杖・手引き	普通歩行	合計	機能訓練実施者内数
8	10	8	26	7



月別利用状況(延利用人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
延利用人数	178	196	189	217	235	214	233	227	225	195	180	223	2,512	209.3
営業日数	22	22	20	23	22	20	23	21	20	20	20	21	254	21.2
1日平均 利用人数	8.1	8.9	9.5	9.5	10.7	10.7	10.1	10.8	11.3	9.8	9.0	10.6	119.0	9.9



※行事及びレクリエーション実績

月	行事及びレクリエーション	内 容
4月	花見外出	車で平和公園へ外出し、桜の花を景観・記念撮影
5月	端午の節句	かぶと飾りを設置、クッキング 柏餅風ホットケーキ作り
6月	公園外出	千種公園ゆり、茶屋ヶ坂公園あじさい見学
7月	七夕会	短冊に願い事を書き笹に飾り付け、型抜きアートにてカードを作成
8月	夏祭り	綿あめや射的など屋台にて夏祭りを演出し、太鼓を叩き炭坑節を踊る
9月	敬老を祝う会	手形と事前に希望を聞いた実用品を記念品として贈呈
10月	近隣公園外出	近隣公園へ徒歩にて出掛け秋の雰囲気味わっていただく。
11月	クッキング	秋の食材を使って、日替わりでお菓子作りを実施する。
12月	年忘れお楽しみ会	職員仮装にてビンゴ大会とカップケーキ作りを実施する。
1月	初詣外出	初詣外出(上野天満宮)
2月	節分	節分に因みゲームと豆まきを実施する。
3月	春の会	お茶会とフラワーアレンジメントを実施する。